論說

◉現內閣の道路政策

○

憲政會單獨內閣の來るべき新年度に於ける施設を表現する十五年度豫算の編成行はれ、吾人の重視した道路改良に關する豫算も明かと爲るに至つた、今其の內容を檢するに道路改良費として五百十一萬七千五百五十圓、自動車道路助成費として三百萬圓を計上した、前者は從來の道路改良費を維持する爲に本年度豫算の三百五十萬圓に百六十萬餘圓を追加して既定工事の續行を圖らむとするもの、後者は地方道路にして近時著しく發達した自動車の利用に堪へ得ざる主要府縣道二千里を一億六千萬圓を以て改修せしめ、之に對し國庫は五千三百萬圓を投じて十年間に補助し、道路改良に必

要な新式機械を購入して地方に貸付する計畫の下に其の初年度に屬する豫算を計上したものである。

以上の計畫は道路行政を主管する內務省の要求した豫算であるが、財政整理の聲明に拘束されて何事も之れ消極に走る現內閣が此の要求を如何に取扱ふかは獨り路政に關係を有するものゝ監視に止まらず國民一般が注視を怠らなかつた所であつたが、新聞紙の報道する所に依れば財務當局は道路改良費豫算を三百五十萬圓に査定し、吾人の最も期待した自動車道路助成費はこと新事業に屬すと言ふ理由を以て之を否決し去つたとのことである、何れ內務當局は此の如き無理解な査定に服從すること無く、飽くまで原要求の維持に力めるであらう、否な力めなければならぬ責務を有するのであるが、財務當局の此の査定は果して民意に適ひ時勢の進運に順應したものと言ふを得べきであらうか。

○

道路改良費は曩年政友會內閣が樹立した道路政策の一片鱗である道路公債法の內容に屬することは玆に事新しく言ふ迄もない、當時內閣の採つた總ての公債政策に對しては吾人も亦贊成するものでないが、道路改良事業の如きものに對する資源を公債に求めたのは必ずしも反對すべきものでなく、寧ろ理論的根據を有するものとして謳歌せざるを得ないのである、其の政策の下に大正九年度は二百五十萬圓、十年度は四百三十萬圓、十一年度は七百萬圓と言ふ如く豫定通りの支出を觀、往古より忘れられた道路改良の機運を著しく促進したのであつたが、十二年度に於ては豫定計畫九百萬圓

のものが減額されて六百七十五萬圓となり、更に十三年度に於ては一千萬圓の計畫が四百二十五萬圓、十四年度は三百五十萬圓と逐年減額され現在に至つたのである、政府豫算が此の如き狀況なるに反し、一方地方は道路改良の急務に迫られ國庫補助政策に信賴して改良事業を興すもの續出し中央の豫算と地方の事業熱とが反對の狀況を呈するに至り、爲に補助は工事の進捗に伴はず工事完了後數年を經過するも尙補助金の交付を受くる能はざる現況である、故に財政經理の上よりするときは工事の進捗に適應した補助金を交付するのが理想である、併しながら貧弱な我國財政に此の理想を要求するのは無理としても、五六年前に發生した債務を償還する位のことには何人も相當經理眼を傾くる必要がある、此の點からすれば內務省が五百萬餘圓を要求したことすら既に不充分であるに拘らず尙之を削減すれば如何なる結果を惹起するであらうか。

政府の補助政策と自動車の發達に勵まされて折角勃興した地方道路の改良事業は萎縮し、其の結果は國民生活費の昂騰と爲り生產的不經濟を招來して地方の疲弊を一層助長せしむることゝ爲るのは明かである、更に國庫補助を豫定して地方が施設したものも其の豫定收入を得る能はずして歲入缺陷を生じ、財政難に惱まされつゝある地方を一層困憊せしむるのみならず、現在施行中に屬する工事は當初豫期した財源を失ふ結果として中止又は廢止するの已むを得ざるものが續出し既に支出した金額は遂に不經濟的支出に終ることと爲るのである、此の如きは國民生活の進展を無視し、己は資產を有しながら吾が子の破產を觀つつも袖手傍觀尙之を救濟せざる不量見な親と同一である。

○

自動車道路の助成費は國道以上の効果を擧くる主要道路を改良せしめて之に對し補助するのであつて、地方を進展せしむるが爲に是れ以上良好な事業は無いである。從來の政黨政派は鐵道の敷設を以て地方民心を煽動したが地方の事情を洞察すると現在道路の局部を改良すれば自動車の通行を自由ならしむるもの又道路を新設すれば自動車を通し得て地方の發展に資すると言ふものが所在して居る、從來の地方民は政黨の煽動に依つて鐵道さへ敷設すれば地方は發展するものと心得十年來もこない汽車の煙を望んで待つて居たのであつたが、既存の地方的交通を掌る軌道や鐵道が新式交通機關である自動車の發達の爲に著しく其の効用を削減され、一日に五六回運轉する鐵道が何等の効果のないことを目擊して鐵道萬能の迷夢から醒め、自動車道路の必要を絶叫するに至つた。此聲に聽いて地方の發展に資することは國家の爲すべき緊急要務である、殊に政府の鐵道敷設計畫が繰延られ之に代るべき何等かの施設を爲さざるべからざる今日に於て鐵道敷設費用の五分一を以て支線鐵道以上の効果を擧げ得べき事業は之を措て他に求むることが出來ないのである。內務省當局が此點に着眼したのは遲蒔きながら恰好な計畫と言はなければならぬ、彼の米國が英國より十倍の道路を有したにも拘はらず道路に關する經費遙に英國の下位に在つたものが、近時之に十數倍の費用を投ずるに至り英佛の如きは言ふに足らざるに至つたことや、歐州大戰に於ける自動車道路の効用を考ふるときは、既に今日は議論のときではなく實行のときである。昨年仙石鐵相の爲に、地方分捕主義の下に組成せれた鐵道敷設計畫の變更に對し、政黨者流は唯だ變更案其ものに就いて改主建從主義を攻擊し、之に代るべき施設に付論議しなかつたのは、當時吾人は其の淺薄さを笑つた

のであつた、一年を經過した今日內務當局が提案したものも規模餘り狹少の感あるに拘はらず此重要案件を財政緊縮てふ名義の下に否定し去つた財務當局の短見を憫むのである。

○

以上二案に對する財務當局の査定案は閣議に於て其の採否を決定さるゝのであるが、萬一にして此査定案の如く確定されむか、吾人は現內閣の爲に悲しむものである、蓋し道路改良費の維持は政友會內閣の政策を踏襲するものであつて、假令之を踏襲したとしても以て現內閣の効果に歸することが出來ない、此の如きにも拘はらず理想案に一歩たりとも近つかむとする主務省原案を尙削減した點に於て却つて其責を負はなければならぬ、又一面曲りなりにも成立した鐵道敷設計畫を變更した以上は之に更るべき何等かの施設を爲すべき責務を有する現內閣が、鐵道敷設計畫の變更に代るべき自動車道路助成費を否認して尙且つ國民の信望を買はむとする如きは思はざるの甚だしきものである、此の如きは道路政策を基礎として政黨を樹立せむとする國外の事情と餘りに遠ざかり、現內閣は道路に關し何等の政策を有せずと言はるるも亦辯解の辭を持たないことと爲るのである。

行き詰つた我國財政を緊縮して將來の發展を圖ることの必要なことは固より當然の事であるが、唯だ此事にのみ沒頭して國民經濟力の進展を圖るべき事業を抑制するならば遂に財政を緊縮すべき原理に反悖して財政緊縮を爲さざると同一の結果に終るのである、現內閣の與黨は農村の發展に資するが爲に稅政を整理し、都市集積の弊と財界不況の爲に表はれた失業者救濟の社會問題を解決したと聲明して居るが、何れも姑息偸安の消極的手段であつて其の結果の由來した根本の缺陷を艾

除する方策を採らないのは吾人の遺憾とする所である、地租の輕減固より惡くはない併しながら之を輕減せずとも農民が喜で此の負擔を甘受する丈けに農村を進展せしむる積極的手段を採らず、又ば尠からざる國帑を投じて都市に浮動する失業者を救濟したが、其の費用を以て地方事業を進展せしめ地方民の都市に集中するの風習を防止する手段を講ぜなかつたのは吾人の解する能はざる所である、是等當面の問題を解決するが爲には地方道路の改良を助長するを以て策の得たものであることは先進國である英國の例に徵しても明かである。

苦節十年野に在つて放漫政治の影響を體驗した憲政會の諸公が聊ともすれば日々に變轉し展開する政治時相を消極的手段に依つてのみ解決せむとすることは、反對黨內閣時代に行はれた放漫的積極政策と同一の缺陷を招來し國家を塗炭の苦境に陷らしむることゝ爲るのではなからうか、若し然りとせば唯だ兩者が採つた其の手段が積極か消極かに在つたに過ぎずして誰か烏の雌雄を知らむやの類に外ならない、賢明な閣僚諸公は吾人が玆に論ずるまでもなく此の輿論を知るが故に財務當局の査定を是認するが如きは萬あるべからざることゝ信ずるも、與黨の重要地位を占めた濱口藏相の査定にして此の事あるを思はゞ閣議の結果を傍觀するに忍びざるものがある。

若し不幸にして現內閣が道路改良の事業を疎却し此要求を容れざらむか、來るべき內閣は必ずや自動車道路助成案を政綱として國民に臨むべく、結局憲政會內閣は鳶に油揚をさらはれたることと爲り、道路政策に付何等の識見と實行力を有せざりし譏を受けざるべからざるに至るを以て萬難を排して兩豫算を是認せむことを希望して已まないものである。（大正十四年十一月七日緊急理事會を終つた時しるす）